

野球規則及びルールの確認

1. 試合時間とサドンデス

- (1) 現行規定のとおり、「1時間20分を越えて新しいイニングに入らない」
- (2) 後攻がリードしている時、時間がオーバーした場合はその時点で終了とします。
- (3) サドンデス

★規定の時間を経過していても、同点の場合は、1回(表・裏)のみサドンデスで決着をつけることを原則とする。

★サドンデスを1回行ってなお同点の場合は抽選とします。ただし、規定の時間を経過していない場合は、継続打順(大会規定)にて2回目のサドンデスを行います。

★ただし、次の試合に支障を来たと当該審判員が判断した場合のみ、抽選とすることがあります。そのときは、両チームの監督にその旨説明をします。

2. ベンチ入り人数とその資格

以下の通り変更します

ベンチ入りは計6名までとする。その内訳は、

【監督30番、コーチ2名29、28番、スコアラー、代表(部長)、マネージャー】

監督およびコーチは選手と同じユニフォーム(アンダーシャツ、ストッキング等)を着用のこと。スコアラーが不慣れで複数入ることは認めますが、その場合もベンチ入りは6名以内にとどめることとします。

★監督は、選手をベンチ内に必ず入れること。ただし、会場によって、ベンチの範囲が定かでない場合は、当該審判員の指示に従って下さい。

★相手投手の投球練習時に、ベンチを出て素振りをする行為は、次打者のみ許されます。

3. 試合中の脱帽はしないこと

選手は試合開始および終了の挨拶の時のみ脱帽する。整列時には、必ず帽子着用のこととし、試合中での脱帽の必要はない。(特に、ファウルボールを球審に手渡す時)また、試合終了後の相手チームへの挨拶は不要とする。速やかに自軍ベンチへ戻ること。

4. ルール改正に伴う規則の適用について

(1) 2014年度に改正される規則・・・「三塁への偽投の禁止」

【適用規則】 「(投手板に軸足をつけたままの状態での) **三塁への偽投を禁止する**」

【3.05(d)】(投手の投球義務)について → 下記についてはJBLAでは適用しない。

すでに出場している投手がイニングの初めにファウルラインを越えてしまえばその投手は第一打者がアウトになるか一塁に達するまで投球する義務がある。

5. 投手の変化球の投球禁止

【球審が投球を変化球と判断した場合の処置】

ケース	処置(判定)
(1) 打者が見逃した場合	その投球が“ストライク”、“ボール”に関わらず、カウントを「ボール」とし、変化球である旨ベンチに知らせ、注意を与える。
(2) 打者が打ってファウルになった場合	その打撃を無効とし、カウント「ボール」を宣告する。注意を与える点は上記と同じ。
(3) (走者なし) 打者が打ってフェア打球となったが、打者走者はアウトとなった場合。	そのプレイを無効とし、打ち直しとする。その投球はボールをカウントする。注意を与える点は上記と同じ。
(4) (走者なし) 打者が打ってフェア打球となり、打者走者が一塁に生きた場合。	そのプレイを活かす。(インプレイ)
(5) (走者あり) 打者が打ってフェア打球となり、打者走者はアウトとなったが各走者は進塁した場合。	そのプレイを無効とし、打ち直し(投球はボール)とするが、監督の申し出があれば、プレイはそのまま有効とする。
(6) (走者あり) 打者が打ってフェア打球となり、打者走者を含むすべての走者が進塁した場合。	(4)と同じ
(7) (走者あり) 打者が打ってフェア打球となり、打者走者はアウトとなったが、得点が記録された場合。	(6)と同じ

6. 「ボーク」の判定について

A・B・Cリーグに対象とします。

具体例(右投手)

ケース	ポイント	判定基準
完全静止		打者が打撃態勢を取れなければボーク
一塁へのけん制	軸足の移動はどこまで認めるか	三塁側へ出ても、一挙動であれば問題なし。“半足長”を目安とする。それ以上は、軸足の移動とみなし、ボークとする。
二塁へのけん制	左(自由な)足の上げ方	塁へ直接踏み出した場合のみOKとする。目安として、角度は90度以下。足を高く上げた場合は、投球動作とみなし、本塁へ投球すること。
打者への正対	顔の向き	投球動作を起したときは、すでに打者に 顔が正対 していること。
セットポジション	投げる方の手の位置	下に下ろして身体の横につけた姿勢から入ること。
サインの確認	その後の投球動作	サイン確認後、中断することなく、一連の動作に入る。
けん制後にすぐさま投球動作に入る		球審は後方の位置からはずしてやり直させる。規則に違反していなくても、マナー上の観点で投球をさせない。

※上記に違反したと判断した場合、「ボーク」を宣告する。

7. 野手のマナーおよび遵守事項について

- ①打者がサインを確認するときは、打席内で見ること。片足でも打席から出さないこと。
- ②打者がインコースの投球を避けず身体に当たった場合、死球と判定されない場合がある。
- ③(ファウルボール等で)ボールデッド時の走者は、一旦帰塁(リタッチを果たせば)すればプレイの掛かる前に離塁してもかまわない。
- ④イニング交代時の投球練習時は、捕手はマスクを着用する。
- ⑤捕手の準備のため、代替捕手が投球を受けるときは、マスクを必ず着用する。
- ⑥捕手が捕球直後にミットを動かす行為を禁止する。
- ⑦打者の守備妨害について
 - ・走者の盗塁を助ける行為があった場合は、打者をアウトにし走者を元の塁へ戻す。
 - ・「助ける行為」とは、バントの構えやバットの引き方、レイトスイング、本塁上へ出るなどを指す。

8. 本塁上での捕手のブロックの禁止および「オブストラクション」の適用について

【ボールを保持する前の捕手の立つ位置は】

「ホームベースの中央線より右側に立ち、左半分を走者に見えるようにすること」

捕手はボールを持たずに走者の進路をふさいではならない。逸れた送球を捕球するためか、すでにボールを保持している場合のみ塁線上に位置する事ができる。

故意か無意識にかに関わらず、走者の進路が確保されているかどうかの確認を審判員は行い、それに違反すると思われる場合は、「オブストラクション」を宣告します。

9. 観衆のマナー

1. ビデオカメラの撮影設置場所の制限

あくまでマナー上の観点から、バックネット真裏および中堅正面からの撮影を禁止する。

2. 相手チーム(選手)および審判員への度を越えた野次等の禁止。

3. 応援のご父兄、ベンチ入りのコーチ等、節度と良識ある観戦(応援)をお願いします。

10. 「大会規定」および「競技者必携」

上記記載以外の定めなき事項については、『「競技者必携」(全日本軟式野球連盟発行)およびJBLA「大会規定」に準じます。

2014年1月12日 JBLA 審判長 石井利一